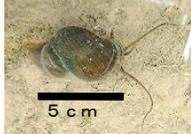


北栄町 ジャンボタニシ対策一覧表

令和4年度4月現在 北栄町ジャンボタニシ防除対策協議会

○ジャンボタニシの特徴



- ・触角が長い
- ・動きが早い
- 素手で触らない!



- ・卵塊はピンク色
- ・神経毒がある
- 素手で触らない!



- ・田植直後から活動し すぐに苗を食べつくす
- 地域一体となって対策し 我々の水田を守りましょう!

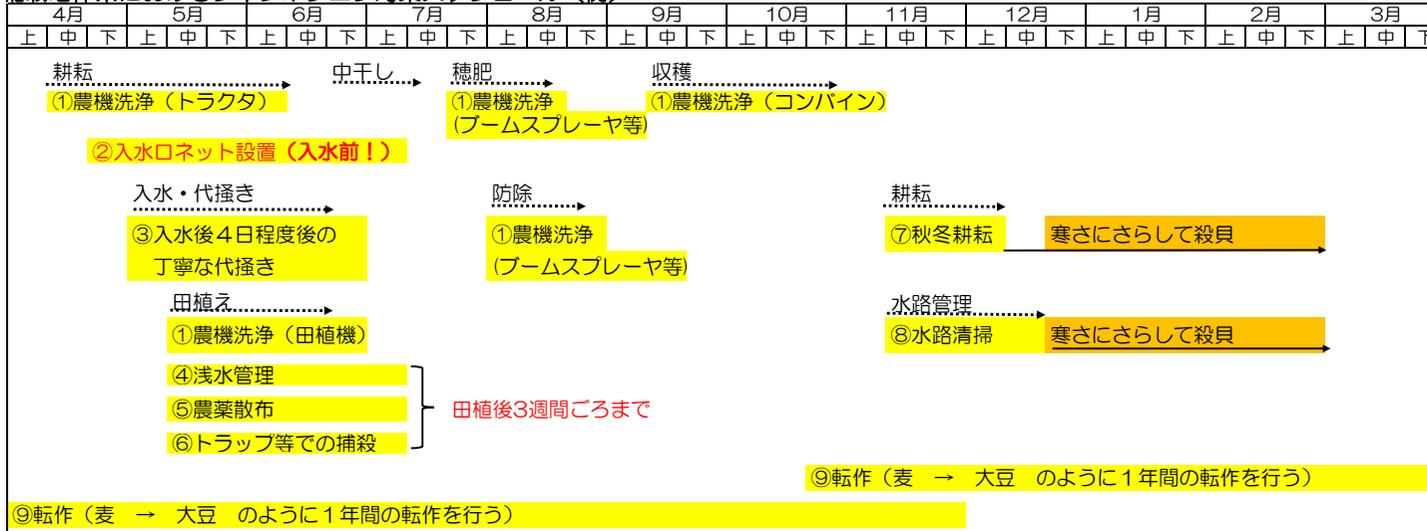
在来タニシとの違い



○地域ごとに必要な対策があります

地域	発生状況 ・ 対策の考え方	必要な対策 (◎：必須、 ○努力目標)								
		①農機洗浄 (泥を落とす)	②入水口 ネット設置	③入水4日程度後の丁寧な代掻き	④浅水管理 (水深4cm以下)	⑤農薬散布	⑥トラップ等による捕殺	⑦秋冬耕耘	⑧水路清掃 (泥上げ)	⑨転作
ア 常発地域	<ul style="list-style-type: none"> ・横良川周辺など、数年に渡りジャンボタニシが見つかった地域 ・R2年以前に大規模な食害が発生した地域 →食害発生を防止する 他地域や未発生田へ広がらないようにする 	◎ <small>(ウ 未発生地域やア・イ内の未発生田に入る前に洗浄する)</small>	○ <small>(水路から田に入れない!)</small>	○	◎	◎	○	◎	○	○
イ 発生直後の地域	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年にジャンボタニシが見つかった地域 ・R2年以前に発見されたが食害程度は小規模であった地域 →ジャンボタニシの撲滅を目指す 他地域や未発生田へ広がらないようにする 	○		○	◎	◎	◎	○	○	
ウ 未発生地域	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年までジャンボタニシが見つかっていない または被害が無かったが、近接地でジャンボタニシが発見されている地域 →水路や農機から水田へジャンボタニシが入ってこないようにする 	◎ <small>(ア・イの地域から来る前に洗浄する)</small>								

○移植水稻栽培体系におけるジャンボタニシ対策スケジュール (例)



○対策内容について

①農機洗浄（足回りの泥を落とす）

- 発生地区で作業したトラクター、田植え機、コンバイン等のタイヤやロータリー爪等にジャンボタニシを含む泥が付き、それがスクミリンゴガイ未発生地区に持ち込まれることで発生地域が拡大する
- 未発生地区に持ち込まないよう、農機の洗浄を徹底して行いましょう



②入水口ネット設置

- 水路には水田よりも大きな貝があるので、入ってこないようにする
- ゴミの詰まりが大変なので約9mm目合いの網を張る
- 春の入水〜田植後3週間だけでいいので、大きな貝が入らないようにする

設置例（ホームセンターで入手できる資材を活用）



例1) 給水バルブにBBQ網を半円形に曲げて設置 例2) 平織り金網を支柱で固定



例3) 大根ネット 例4) BBQ網を水口に棒で固定

③丁寧な代掻き（入水して4日程度してからゆっくり代掻き作業）

- 水温15℃以上・3〜4日の湛水条件下でジャンボタニシは休眠から覚め活動する
- 目を覚まさせて土中に出てきてから、丁寧にゆっくり代掻きをして物理的に砕く

④浅水管理（水深4cm以下）

- 深水になるとジャンボタニシは活発に苗を食害する
- 田植え後約3週間（水稲5葉期ごろ）まで、水深4cmまでとする
- ほ場均平が重要！ レーザーレベラー施工、浅水代掻きで、ほ場均平化に努める
- *溝切りをしておき、食害されそうになったら落水する現地事例もある
- *急な大雨で深水になると大きく食害されるので、落水しやすいよう落水口を管理しておく
- *暖冬後の水稲作で貝が多い水田では、水稲初期除草剤は使用せずに移植後から浅水管理の実施を優先し、中期除草剤から除草対策を行うことも有効である



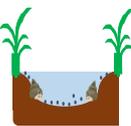
堰板を低くして浅水管理しやすくした事例



水深4cmを分かりやすくした事例

⑤農薬散布

- 効果が確認された農薬は「スクミノン」「ジャンボタニシくん」など
- トラップ等を代掻き後に仕掛け、ジャンボタニシが動き出したことを確認してから集まる場所に集中的に散布するとより効果的である
- 田植え後に水の濁りが無くなってから散布するとより効果的
- 湛水状態（水深3cm程度）で散布し、散布後7日間は落水やかけ流し・排水はしない
- 使用量は農薬の規定以内で行う。
- （例：スクミノン：10aあたり1〜4kgを散布、収穫60日前まで）
- 用水路には絶対に散布しない
- ジャンボタニシは水口周辺、畔際、深水になる箇所へ集まる
- 集まる場所に集中的に散布するとより効果的である
- 散布方法として、手播き、動力散布機（1キロ粒剤散布可能なもの）があります
- スクミノンは、田植え同時散布可能な専用散布機（丸山製作所 MJT-8）があります



⑥トラップ・網でのすくい上げ等による捕殺

- 深水になる水口や畔際などに、浅水管理できないところに仕掛ける
- トラップが水に浸るくらいの穴を掘ってから設置すると集まりやすい
- 餌（米ぬか、ぬか床、筍、野菜くず等）をすぐに食べつくすので、毎日管理する

トラップの例



例1) 苗箱トラップ 例2) ペットボトルトラップ 例3) 段ボールぬか床トラップ

*捕獲した貝の処分方法

- 1) アスファルト上などで踏みつぶして殺す（放置せず清掃すること）
- 2) よく水切りして、可燃ごみとしてほうきりサイクルセンターへ持ち込む

⑦秋冬耕耘

- 地中の貝を地表面近くに出し、1〜2月の寒さで殺貝 + 大きな貝を砕く
- 貝は地下6cm程度までいるので、地表5〜10cm（浅めに）を耕す
- トラクターの進行速度は遅め、ロータリー回転数は高速回転で行う
- ・やらないよりはやった方が絶対に良い！
- ・乾田にして土が固まっている時が効果的。土塊が崩れるときに小さい貝もつぶれる。
- 湿田や土が軟らかいところは、③〜⑥を中心に対策を行う



耕耘で地表に現れ寒さで死んだジャンボタニシ



耕耘で破碎されたジャンボタニシ

⑧水路清掃（泥上げ）

- 泥上げの効果は以下のとおり
- ①寒さで殺貝
- ②越冬場所をなくす
- ③雑草除去が翌年の餌をなくす
- 自分の田んぼに入れられないため、隣人の田んぼに入れられないためにも地域一帯で行いましょう！



泥上げの現地事例

⑨転作

- 1年間の転作（R4年水稲→R5年産大麦→R5年大豆など）を行うこと
- ジャンボタニシの寿命は2年であるので、2回目の冬は越冬できない
- ジャンボタニシは秋に落水すると口蓋を閉じて次年度の入水待って水が入ると貝が呼吸できるが、無いと呼吸できず死ぬ
- 転作期間に貝を水に浸して呼吸させないこと。（転作の排水対策を徹底的に！）

○その他：水路での卵塊の払落し等



ピンクの卵塊
・水没させると死ぬ
→払落しが効果あり



白っぽい卵塊
・孵化に近い
→つぶすことが効果あり

- 可能であれば3〜5日おきに行う
- （好条件では2〜3日おきに産卵し、産卵後25℃、約2週間で孵化する）